



鑛業研究所の設立を提唱する

田中鑛業株式會社 代表取締役 田中次郎

毎年夏になると一昨年銅補給金撤廢對策運動に飛び廻つたことを憶い出すが、當時は不況の底にあつた非鐵金屬が今日の如き價格の昂騰を來す如き事は夢想だもしなかつた。幸い今日では各社とも高價格の好影響を受けている事は御同慶の至りであるが、申すまでもなく景氣は循環するものでいずればこの反動も來るものであることは豫想に難くない。元來需要と供給の關係による價格の變動は極めて微妙なもので極く僅少の供給不足により價格は異常の昂騰を示したり、これが過剰となるといふ懸望だけでも大幅の反落が來ることもあり、これらは投機思惑などの意圖が加味されるためで人間性の弱點を暴露するものである。故に好況時には常に不況時の對策を講じておくことが經營者としての心構えであらねばならぬ。かゝる事は誰人も知悉していることであるが實際問題としては仲々實行困難な事である。

私が先年爪哇を旅行した時まことに感服した事がある。それは同地にある和蘭の各製糖會社が共同出資して研究所を設け、こゝで甘蔗の品種改良並びに耕作法の改善、土壤肥料の問題、製糖技術の向上其他あらゆる試験および研究を行い、その結果爪哇の製糖業は台灣の糖業を遙かに凌ぐ成績を示していたことである。

そこで我が鑛業界であるが先年銅補給金撤廢の時にはベートマン博士の懇憑によつて銅鑛業技術合理化委員會が設けられ業界の三長老である三毛、矢部、富田の三氏を顧問として全國の鑛山の技術的向上改善に勸告が行われ極めて好成绩を挙げ業界に大なる貢獻をせられたことは記憶に新たな所で業界としては深く三長老に感謝している次第である。

かくの如く技術の合理化向上によつて成績を挙げ得たのであるがこの考えを更に推進して、我鑛業界においても爪哇の糖業研究所の如き鑛業研究所を各社の共同出資によつて設立しては如何であるか。私はこれは單なる學術研究機關でなく實際に則する應用的價值ある研究に主眼を置きその研究結果を發表して各社の合理化ならびに技術向上に資すればこれによつて各社の基礎を一層強固なものにすることが出來ると確信する次第である。

太平鑛業會社はつとに大宮鑛業研究所を設けられ前述の如き研究を行われ業界に多大の寄與をせられてゐる事は大いに敬服する處であつて、各方面から感謝と賞讃を寄せられているが、かかる種類のものを業界にも欲しいものである。なお協會の技術部も從來有益な活動をしていられるが實際の研究所持つ事によつてさらに一層有意義なものとなるものと思う。

幸い現在我鑛業界は好況に恵まれてゐるので、かかる出資をするのも今が絶好の機會ではないかと思う、敢えて研究所設立を提唱する所以である。

日本鑛業協會誌(第四卷第九號)

九月號 目次

▽卷頭言

鑛業研究所の設立を

提唱する……………田中次郎…一

☆金屬鑛山に於ける

探採鑛のバランス……………柳生六郎…二

☆鑛塵防止用の

濡潤劑について……………三野英彦…九

☆【海外技術紹介】

ポータブル破碎プラントが

オーストラリアの金山で活躍

……………A I S ……二〇

三つの利點をもつ

新スキップ……………E・M・J…三

▽小鑛山への税の助言……………レスターJランダル…三六

▽マンガン鑛業合理化答申案……………三六

▽月間の動き……………三六

▽ニュース……………三六

▽協會だより……………三六

▽資料ページ……………三七

【表紙寫眞】

日室鑛業株式會社秩父鑛業所選鑛場全景